社会人対象に専門性を極める 大学院1年制コースを新設

大学院生活機構研究科の福祉社会研究専攻 に「福祉共創マネジメントコース」「消費者志 向経営コース」、生活文化研究専攻に「1年制 コース」を新設予定です。

保育・福祉分野に特化した 経営人材育成

「福祉共創マネジメントコース」は、これか ら医療・福祉等に多様なニーズが増加するこ とを受け、保育・福祉施設、保健医療・福祉経 営者、管理者(リーダー)養成するための経営 大学院です。

本コースは2つのプログラムを開講しま す。「保育・福祉施設経営大学院プログラム」 では、保育や福祉分野に特化した専門的な経 営人材を育成します。「保健医療・福祉経営大 学院プログラム」では、マネジメント力など を高め保健医療や福祉の経営者、管理者を育 成します。

消費者志向経営を学ぶ

「消費者志向経営コース」では、消費社会に

学校法人昭和女子大学は、2021年度より おいて、新しい価値創造に取り組み、会社や 組織の企画、立案、推進役などを担う人材の 育成を目指します。本大学院修了により、修 士の学位のほか、「マスター消費生活アドバ イザー」の資格の取得が可能です。

> 企業で企画、経営を担う中堅・若手社員、 行政やNPOでルール作りに携わる職員など の履修を想定しています。

教員・学芸員のキャリアアップ

生活文化研究専攻「1年生コース」は、学芸 員資格を持つ方や、学芸員や教員を目指す人 のステップアップを目的としています。歴史 学·民俗学·人文地理学·考古学·美術史·文化 財学などから各地域・時代の文化と生活を研 究します。在学中に国文学研修資料館の講座 を受講し、本学認定の『准アーキビスト資格』 が取得できます。ボストン・ワシントンD.C.の 美術館・博物館での実地見学、光葉博物館で の実習などがあります。

いずれのコースも、オンライン受講との併用 など仕事と両立できる柔軟な就学が可能です。



文化講座、オンラインで実施

2020年度女性教養講座は、新型コロナウ イルス感染拡大防止と学生の健康と安全を 考慮し、オンラインで実施します。

文化研究講座についても同様にオンライ ンを活用した2つのプログラムを実施しま す。「【A】音楽・芸術分野」では、デジタルでの

音楽鑑賞の発展が社会でどのように受け止 められているかを考察します。「【B】世界の ミュージアム・ビジット」では、オンラインで 美術鑑賞を行います。状況に応じて講座は 変更になる場合があります。最新の情報は、 UPSHOWAをご覧ください。

学部新設相次ぐ

2020年度より、これまで生活科学部の中 にあった環境デザイン学科が、環境デザイン 学部として分離独立しました。「人・社会・環 境」の課題解決していくために、デザインの 切り口で広い視野を持ち、デザインカとデジ タル対応力を生かして社会貢献できる人材 を育成します。

2021年4月には生活科学部が食健康科学 部に名称変更し、管理栄養学科、健康デザイ ン学科、食安全マネジメント学科の3つの視 点から、食の科学を通して人の体の"内側"か らクオリティ·オブ·ライフ(QOL)の向上を 目的とした学びを追究します。



swu.ac.jp



学報に掲載されている記事はWEBでも配信中 学生記者たちが中心となって大学の魅力を 他にもたくさん発信しています。



2020年度

「科学研究費等助成事業」に 採択された研究



◎新規採択研究

基盤研究(C)

・言語マイノリティの医療保障のための患者の権利に関する比較法的研究 ― 森本 直子 准教授 ·被虐待児とDV被害者を対象とした母子支援体制の評価基準の構築 — 野坂 洋子 助教 ・認知症高齢者の自立生活支援をめざすヘルパー経験知の検証と活用 ― 中矢 亜紀子 専任講師 ・快楽性食欲との関係性からみた抑制機能の操作による摂食行動の変容可能性 ― 山中 健太郎 教授 ・食事栄養因子に基づくアラキドン酸代謝経路における統合オミクス解析法の確立 ― 花香 博美 教授

若手研究

・第二言語の文法知識を運用可能とするコミュニカティブな文法練習方法の検証 — 大塲 貴志 専任講師 ・イノベーションの支援者と企業家の利害対立発生メカニズム:利害の経時的変化への注目 — 三浦 紗綾子 専任講師

◎継続研究

基盤研究(B)

·放射光X線CTによる非破壊での日本刀の体系的研究:作刀技術解明にむけて — 田中 眞奈子 准教授

・英語母語話者の物語コーパスに基づいた慣用句を中心とした絵本教材の作成と提供 ― 金子 朝子 特任教授 ・保育所における食事援助の質向上を目指す研修ツールの開発:多職種アプローチを通して ― 遠藤 純子 専任講師 ・異文化間コミュニケーションにおける共感:日本語母語話者と英語母語話者の会話の分析 — 山本 綾 准教授 ・診療・介護・障害報酬に横断的かつ統合的な財務情報および非財務情報に関する調査研究 — 井出 健治郎 教授 ・戦後日本における世俗の慰霊空間の研究 ― 戸田 穣 専任講師

・谷文晁一門の研究一江戸後期の文人社会における交流を軸としてー ― 鶴岡 明美 准教授 ・ムダルニズマ絵画研究 ールシニョルとカザスを中心にー ― 木下 亮 教授

・古・中英語期における女性聖人伝の系譜研究:Aelfricのテクストと言語を中心に ― 島﨑 里子 准教授 ・現代モンゴル語書きことばの形成 ― 呼和巴特爾 教授

・教材開発を目指した高齢者介護施設における新人介護人材育成のプロセスの実態調査 — 大場 美和子 准教授 ・「越境による共創」で創出する中等教育カリキュラム・オープンイノベーションの探求 ― 緩利 誠 准教授 ・基礎的な包丁操作スキルを習得させるためのバイオメカニクス的根拠と教示方法の明確化 ― 秋山 久美子 教授 ・自閉症スペクトラムの対人社会性の解明ー主題統覚検査の物語反応と視覚運動からー ― 田中 奈緒子 教授 ・クエン酸の疲労軽減効果の客観的評価とGADD34に着目した分子メカニズムの検証 — 渡辺 睦行 准教授 ・近代初期日本における美術・文化愛好者の再生産過程-学校外での教習活動に着目して- ― 早川 陽 准教授 ・日本手話における複合述部の統語分析 ― 浅田 裕子 准教授

・知的障害者の中長期のキャリア形成が企業活動にもたらす効果 ― 根本 治代 准教授 ・中小食品製造企業における営業担当者の人材育成に関する研究 ― 清野 誠喜 教授 ·DOHaD概念に基づく次世代を担う女性の出生体重とその後の体格 — 小西 香苗 准教授 ・食品中のニトロ化トリプトファン生成が生体へ及ぼす影響の解析 — 川崎 広明 専任講師

・戦後日本における「若者」を社会問題化する言説のエスノメソドロジー研究 ― 小川 豊武 専任講師 ・ベニコウジエキスの安全性評価:標準化および医薬品との相互作用を中心に検討 ― 横谷 馨倫 助教 ・貧困に起因する健康問題発症メカニズム解明とこども食堂を介した解決システム構築 ― 黒谷 佳代 専任講師 ・我が国の小・中学校におけるSTEM教育普及に向けたプログラム開発と人材育成 — 白數 哲久 准教授

女性文化研究賞 受賞作決定

『EU 性差別禁止法理の展開』黒岩 容子氏に大賞

昭和女子大学は、「第12回昭和女子大 資する本を顕彰しています。対象は、前年

共同参画社会の推進と女性文化の振興に 受容」が受賞しました。

学女性文化研究賞|大賞を、弁護士・早稲 に刊行した単行本で、今回は35件の応募 田大学比較法研究所招聘研究員の黒岩 がありました。併せて、昭和女子大学関係 容子氏による『EU性差別禁止法理の展 者によって著された本や論文に対する 開:形式的平等から実質的平等へ、さらに 「女性文化研究奨励賞」も実施していま 次のステージへ』(日本評論社)へ贈呈す す。今回は、歌川光一 聖路加国際大学大学 院看護学研究科准教授·昭和女子大学初 昭和女子大学女性文化研究賞は、昭和 等教育学科非常勤講師の『女子のたしな 女子大学女性文化研究所が主宰し、男女 みと日本近代:音楽文化にみる「趣味」の







昭和女子大学

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1-7-57 編集発行人 学校法人 昭和女子大学広報部

昭和學

INDEX オンライン教育 学園の歩み 6 グローバル トピックス 8

G A K U H O S H O W A

100周年を迎えて

コロナの時代も学灯を受け継ぐ

理事長·総長

坂東 眞理子

今年は本学創立100周年の記念すべき年 ですが、思いがけない新型コロナウイルスの 感染防止のため想定外の状況が続いていま す。卒業式は、式典は実施せず学科・専攻毎に 学位記を授与。入学式はメッセージ動画を配 信しました。4月24日からはすべての授業がオ ンラインになり前期末まで行います。うまくい くかどうか心配でしたがすべての教員が事務 局の助けを得て、お互いの経験を交換しなが ら、新しいスタイルの授業に取り組んでいま す。やってみたら対面とは異なる新しいメリッ トを発見した、学生たちも熱心に聞き、課題・ 宿題も9割以上が提出してくる、学習効果は 上がっている、という声も多数聞かれます。

一方2月から3月には中国、韓国、欧州各 国への留学は中止。留学していた学生たち は全員帰国しました。帰国した留学生のほ とんどはオンラインで留学先の授業を受け

4月から留学する予定だったビジネスデザ イン学科の学生たちのボストン留学は延期 となりました。9月から留学を予定していた 英語コミュニケーション学科も東京でボス トン教員のオンライン授業を受けることに なります。

文化研究講座と女性教養講座はオンライ ンとなりました。

大学は少しでも学生たちを支援したいと 学生たちがオンライン授業を受ける環境を 整える奨励金の支給、経済環境が激変して勉 学を継続できなくなっている学生への給付 奨学生枠を増やすなど様々な取り組みをし ています。

大学も教職員も精いっぱい対応していま すが、学生の皆さんにもこうした思いがけな い事態に遭遇して「なんでこんな目に合うの だ」「自分たちはついていないな」と嘆くので はなく、この中で何をしなければならない か、何ができるかを自分で考え対応しようと

呼びかけてきました。これ からはどの職場でもオン ラインの会議、事務処理が 必要になりますから、それ を経験するのは決して無 駄ではありません。自分で 予習復習して授業に臨む のもよいことです。ぜひこ の機会を活用するように してほしいものです。

もちろんグローバル化 を進めていた昭和女子大 学にとって今回の状況を どう受け止め将来に生か していくか、は大きな課題

です。昭和女子大学のユニークな取り組みで ある学寮研修が本来の形で開催ができない のもとても残念なことです。昭和女子大学の 良さを直接アピールするオープンキャンパ スがバーチャル・オープンキャンパスにか わりますが、多くの人に見てほしいです。



昭和女子大学の先哲は、震災、戦災、火災 等の惨禍を生き抜き、学灯を受け継いでき ました。私たちはこのコロナ禍の中でもバ トンを落とさず、次の世代にこの学園の灯 を伝えるため力を合わせていきたいと願っ

建学の精神で飛躍を目指す

小原 奈津子

昭和女子大学は今年創立100周年を迎え ます。第1次世界大戦後の荒廃したなかで平 和で希望に満ちた世界をつくる女性を育成 するために、学生8人、教師5人で「日本女子 高等学院」の教育は始まりました。100年後

11専攻からなり、約6000人の学生が学んで います。「世の光となろう」の建学の精神は現 在もなお脈々と受け継がれていますが、時代 の要請に応じて教育プログラムを進化させ、 IOTやAIの急速な進歩に対応すべく、データ サイエンス教育の準備を進めています。

大学では環境デザイン学科が環境デザイ

ン学部として独立しました。 また、大学院生活機構研究科 では、主として社会人のキャ リアアップや学びの深化を 図るための1年制コースとし て、福祉社会研究専攻に福祉 共創マネジメントコースと 消費者志向経営コース、生活 文化研究専攻に1年制コース が開設されます。

昨年本学キャンパスに移 転したテンプル大学ジャパ ンキャンパス(TUJ)への授 業履修や留学も多くの学生 がチャレンジしており、さら

に後期から国際学部のダブルディグリープロ グラムも始まります。TUJとの交流は、科目 の共同開設や授業間交流に加え、世界各国の ランチメニューを共同作成したり(学生食堂 ソフィアで提供)、英語サロン、日本語サロン 等の各種交流イベントが活発に行われてい ます。英語系・非英語系を問わず、学生はこの 環境を活用して異文化を理解し、グローバル な視野を育ててほしいと思います。

また、創立100周年を記念して様々なイベ 大いに学んでいただきたいと思います。

ントが企画されています。例えば、記念ソング やシンボルマーク、LINEのキャラクターが既 につくられており、記念写真展、昭和女子大学 の未来を考える会議や学内研究所の記念シン ポジウム等が開催される予定です。

前期はコロナ感染拡大の緊急事態宣言に始 まり、授業はオンラインで、構内にも立ち入り 禁止となり、学生には忍耐と不安の日々で あったと思いますが、見方を変えれば、世界や 自分をとりまく環境、自分自身についてなど改 めて深く考える好機でもあったと思います。

共にこの困難を乗り越え、実りある一年に するために残りのセメスターを楽しみながら

一これからの時代を見据えて一 「コワーキングスペース」を開設

この秋、テンプル大学ジャパンキャンパスに隣接する本学10号館1階に、コワーキングス ペースを新設する計画です。学生、教職員、研究員、社会人などが利用し、多様な職業や知識 を持った人たちと学生たちが出会い、交流・協働する場所を目指します。

エントランス近くのラウンジは、大きなカウンター、テーブル席、ソファが並ぶ落ち着いた 雰囲気とします。奥はセミナーやグループ活動で使う教室とし、オンライン講義を配信する スタジオも設置する計画です。

企業や地域との協働プロジェクトで様々な実績を挙げています。これからは、渋谷に集ま る起業家やITエンジニアとのコラボレーションが加わることを期待しています。

第12回昭和女子大学女性文化研究賞







新しい教育の形へ

コンピュータ事務室のサポートのもと、教員たちも研修を重ね、短期間で授業を切り替えました。 学生の健康に配慮しつつ、通信環境整備を支援し、新しい教育の形を進化させる挑戦を続けています。

様々な学生支援策をご利用ください



動画配信から

リアルタイム配信へ

初等教育学科の鈴木円教授は、学生のオン

ライン講義受講環境がどの程度整っている

か不透明なことから、当初は録画配信型(Bタ

イプ)を選択しました。しかし、アナリティクス

機能を基に学生の視聴態度を調べたところ、

スマートフォンやPCなど様々なデバイスで閲

覧していることや、興味のあるところだけを見

これを受け、鈴木教授はZoomを用いた双

方向型(Aタイプ)に移行しました。投票機能

や小グループの討論など、インタラクティブな

講義ができるのが利点です。討論の際は特に

1年生が人間関係を構築できるよう、ある程

度固定のメンバーで行っています。この他、

Zoomの参加状況のログを確認し、途中で通

信が切断された学生には事後に個別でフォ

ローをするなど、学生の学ぶ権利が奪われな

いよう配慮をしています。

るといった傾向がわかりました。

学生の健康維持のために 保健管理室はUP SHOWAで感染予防のための情

オンライン授業の多彩な取り組み

昭和女子大学では、それぞれの教員が学生の不安や負担に寄り添うため、ネットの強みを活かし、

報発信をしています。学生相談室からは「学生相談 室だより」を発行し、ストレス対処の7つのコツを配



オンラインで図書館を活用

図書館では、図書館資料の貸出配送サービス、複写 代行(郵送)サービス、来館利用(事前申請制)サービ スを実施しました。このほか、新聞記事データベース や電子書籍が使用できます。



オンライン授業をサポート

コンピュータ事務室ではオンラインでZoomやUP SHOWA、Google Classroom等の利用方法につい ての情報発信やサポートを行なっています。

「withコロナ時代」の教育に挑戦

ネットやツールの 強みを活かす3タイプの オンライン授業 を実施しています。

昭和女子大学では、新型コロナウイルス感 染拡大防止のため、2020年度の授業は4月 24日からオンラインで開講しました。

オンライン授業は次の3タイプがあります。 さまざまなツールの強みを活かしながら、授 業形式を組み合わせ、学修内容に応じて多様 な形式で行っています。

オンラインへの

A▶双方向型

Zoomなどを用いて 双方向にやりとりするリアルタイム授業

オンラインのコミュニケーションツール Zoomなどを用いたリアルタイムで行う授 業です。途中で録画映像を視聴する場合もあ ります。チャットやアンケート機能、小グルー プに分かれてディスカッションをする機能な どを活用し、対面の授業に近い、インタラク ティブな授業です。

B▶録画配信型

事前に授業を録画して配信し 教員がフィードバックを行う授業

事前に収録した講義の動画をYouTube などで配信します。学生からの質問・意見に は教員がフィードバックを行い、課題提出を もって出席とみなします。開講曜日・時間・場 所の制約なく受講できるのが利点です。必要 に応じて繰り返し視聴して丁寧に学ぶこと ができます。

C▶課題提出型

ポータルサイトで授業の内容と課題を示し 教員がフィードバックを行う授業

学生ポータルサイトUP SHOWAなどで 授業内容を伝え、質問・意見を受け、課題の提 出を求めます。次回以降の授業時に質問・意 見への回答・解説や、課題へのフィードバック を行います。動画配信などに比べて、データの 通信量が少なく、学生の通信環境への負荷を 減らせる利点があります。

充実したファカルティ・ ディベロップメント 昭和女子大学では、オンライン授業の質を

切り替えに

教員研修

ディベロップメント(FD)を推進しています。 FD委員会を中心に、オンライン授業に関 する講演や動画配信を通じて、学科を横断し て教員同士で経験やノウハウを積極的に共 有しています。

向上させるために、様々なファカルティ・

コンピュータ事務室による バックアップ

コンピュータ事務室が全面的に教員の授 業運営をサポートしています。Zoomの使



い方を説明するための体験会を開催するほ か、ウェブサイトやアプリを使って授業を 構築するための技術支援サイト「オンライ ン授業マニュアルサイト」を整備しまし た。このサイトでは、学内ポータルサイト UP SHOWA、Zoom、Google Classroom といったオンラインツールの使い方や、受講 する学生の通信量を軽減する「データダイ エット」、セキュリティ対策まで幅広く情報 を提供しています。

学生の声~ オンライン授業

オンライン授業開始から3週間が経過した 時点で、6161人の学生を対象にアンケート調 査を行いました(回答率47.4%)。88%の学生 はパソコンで受講していましたが、スマート フォンを使用している学生も8%いることが わかりました。

オンライン授業を受けるうえで懸念される こととして、「自宅の通信環境が不安定で、途 中で通信が切れる」「ツールが複数あるため 課題提出などで混乱する」「プリンターがない ため、授業資料などを印刷できない」などが 挙がりました。スマートフォンによる受講では 「通信容量が不足する」「画面の共有がしにく



い」なども挙がりました。

また、オンライン授業で科目ごとに課され る課題の量は79%の学生が多いと感じてい ます。一方、56%が2時間以上かけて課題に 取り組み、86%は「全て期限まで提出してい ると回答しました。

将来的な授業形態については、「オンライ ンを継続したい・してもよい」65%、「対面授 業とオンライン授業を併用して行いたい」 17%と、オンライン授業継続の意思がある ことがわかりました。

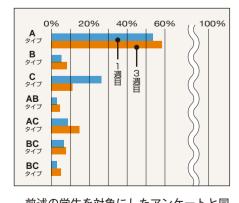
ラインを継続したい・してもよい」51%、「対 面授業とオンライン授業を併用して行いた い」34%など、オンラインやハイブリッドへ の支持がありました。

坂東眞理子理事長・総長は、「大学の場合、 高校までと異なり学生によって受講する講 座がばらばらなため、ハイブリッドにして も学生がキャンパスに登校することにな り、悩ましい。今後、オンライン授業の良さ をどう活かしていくかを検討していきた

今回の調査結果を今後の授業改善に反映

教員アンケート調査「双方向型が約6割に」

課題提出に手ごたえ オンライン授業のメリットも実感



前述の学生を対象にしたアンケートと同 様に、オンライン授業の開始から3週間が経 過した時点で592人の教員にもアンケート 調査を実施しました(回答率72.4%)。その 結果、オンライン授業形式において、当初4 分の1を占めた課題提出型(Cタイプ)から 双方向型(Aタイプ)への移行が進み、3週間 経った時点で約6割が双方向型(A)の授業 を実施していることがわかりました。

開講前に教員向けに複数回のZoom講習 会を実施し、当初から双方向型(A)が54%と 過半数を占めましたが、26%が課題提出型 (C)を選択していました。一方、3週目には課 題提出型(C)が10%に減り、双方向型(A)が 59%に増加、双方向型+課題提出型(AC)の 混合が8%から15%に増えました。

い内容の授業ができていると考えていま す。学習効果については、58%が対面授業と 違いはないかそれ以上の学習効果が挙がっ ていると感じる一方、対面授業より効果が 低い19%、よくわからない23%と、まだ戸 惑いも残ります。その中で特に学生の課題 提出は効果があり、「ほぼ全員が課題を提出 している 比率が85%に上りました。

オンライン化で授業の準備に要する時間 が増えた教員が大半を占め、約半数の教員 が、対面授業よりも週に8時間以上準備のた めの時間が増えたと答えています。負担が 非常に増えた36%、負担はある程度増えた 52%と、負担感も少なくありません。

オンライン授業のメリットとしては、学 生の「遅刻が少なく、出席率が高い」「私語が なく集中度が高い」「寝ない」「反応が早い」 「提出物が対面より期限厳守で提出される」 「ブレークアウトセッションで熱心に話し また、70%がオンライン授業にふさわし 合いに参加している」「PCスキルがあがる」 い」と受け止めています。 などが挙がりました。

また、将来的な授業形態については、「オン させていく考えです。

・総じて対面授業よりも学習の効果が低いように感じる

◎質問:先生がおもに用いた形態の授業を受けた学生の学習効果について、当てはまるもの1つをお選びください ・総じて対面授業よりも学習の効果が高いように感じる ・総じて対面授業と学習の効果に違いはないように感じる

◎質問:オンライン授業にふさわしい内容の授業はできているか、当てはまるもの1つをお選びください

・ほぼできていると思う ・ある程度できていると思う 最低限できていると思う ·あまりできていないと思う 全くできていないと思う ・わからない

21%

23%

さまざまなツールを駆使し オンラインの強みを活かす

学修内容に応じて様々なツールを使い分けながら意欲と質の維持に努めています。オンライン授業の事例を紹介します。



歴史文化学科·松田忍准教授はOneNote と液晶タブレットを活用して双方向型(Aタイ プ)の授業を行なっています。

講義資料をタブレットに表示しながら OneNoteの描画機能で、リアルタイムで直接 コメントなどを資料に書き込みます(写真)。 教室での板書以上にスムーズです。

ユニークなのが、「顔出し担当」で、交代で 学生数名がビデオオンにして授業に参加しま す。全員がビデオオンにすると通信量が増え てしまいますが、一部の学生に収めることで 通信量を抑えつつ対面の授業同様に受講生 の反応を見て講義の緩急をつけています。

この他、クイズやアンケート、チャットを活 用して、受講生全員の理解度をチェックしな がら授業を進めています。

格差がない学びを 提供するために

ビジネスデザイン学科の前田純弘教授が担 当する「メディア論B」では、受講環境によって 格差が出ないよう工夫しながら録画配信型(B タイプ)、課題提出型(Cタイプ)混合の授業を 行なっています。

前田教授は授業の初回でアンケート調査 を実施し、履修する学生の受講環境を調べま した。その結果、自宅にプリンターがない学 生が一定数いることが判明しました。そこ で、自宅にプリンターがない学生には全ての 資料を郵送することにしました。また、A3サ イズで閲覧することが望ましい資料につい ては全員に郵送しています。

授業では、事前に録画した授業動画に加 え、授業の音声ファイルも配信しています。 音声ファイルは動画に比べてデータが軽量 なため、学生が通信量を節約することができ ます。これに加え、講義の内容を音声入力を 用いて文字起こししたテキストファイルも 配信しています。

レポート等の課題は、UP SHOWAの入力 フォームに、テキストを直接入力して提出し ます。学生が自分のデバイスにソフトウェア やアプリをインストールせず、ブラウザ上で 取り組むことができます。

学生体験談 実習ができない授業は今

昭和女子大学で前期がすべてオンライン 授業となる中、教室での実習ができない授 業がどのように行われているのか、心理学 科の学生の立場からお伝えします。

まず、「心理学研究法」という授業では、面 接法をテーマに、教室内で1対1の練習をす るはずでした。この実習ができなくなった 代わりに、面接で得られた資料から分析を する課題が出されました。前年までは取り 組んでいなかった、より高度な分析法です。 先生もこの課題を出すことに少し躊躇した そうですが、研究法の理解を促進するため に取り入れたそうです。

次に、「データ解析」は、パソコン教室で 「SPSS」というソフトを使いながら自動計 算、処理を学ぶ授業です。しかし、パソコン教 室も使用できないため、オンラインで先に先 生が数値だけ示し、学生たちはどのように統 計処理をすればいいか、説明できるようにす る、という内容に変更になりました。統計処 理の理解を深め、授業の進度に支障がないよ うに取り組みが行われています。

(記者:心理学科 五日市 萌)

オンラインによる就活支援 キャリア支援センター

キャリア支援部・キャリア支援センターで は、例年であれば企業の説明会や採用・選考 などが活発に行われているこの時期に、自宅 からオンラインでしか就職活動ができない学 生が安心して就職活動に向き合えるよう、オ ンライン支援体制を強化しています。

4月1日から学内の立ち入りが禁止となりま したが、学生の相談に柔軟に対応できるよう ワードを入力し、マッチングしたメン に、キャリアカウンセラーと職員による個別 ターから直接アドバイスをもらうことが 面談を、前年度の1日42枠から56枠に拡大 できる「個別メンタリング」はZoomで し、新たに直前相談枠を設けました。履歴書 やエントリーシートの添削、模擬面談などをオ ンラインにて行うことで不安や悩みを抱える 学生を細やかに支援しています(写真)。

また、信頼できる社会人と学生が出会い、 卒業後のキャリアプランやライフスタイルに ついて相談できる、本学独自の「社会人メン ター制度」の各プログラムも5月下旬からオン ラインにて開催しています。設けられたテーマ に沿ってメンターと学生が懇談する「メンター

カフェ」は、メンター 2人と学生20人が Zoomを通して実施しました。様々な職 業やライフスタイルの社会人メンターを 囲んで学生たちが自由に話を聞ける「メ ンターフェア」は、学生から事前に収集し た質問を回答動画として公開していま す。また、学生がデータベースでキー 開催しています。



シンポジウム 「コロナ非常時の就活」に注目

5月23日、昭和女子大学が主催して「コロ ナ非常時の就活」シンポジウムがZoomで 開かれた。当初定員300人を予定していた が倍の参加希望が寄せられ、約500人がオ ンラインで参加した。昭和女子大学3、4年 生を中心に、他大学の学生、大学教職員や企 業の採用担当の方も多数参加した。

企業ごとに状況は違う

シンポジウムでは、企業の採用担当者の 方からのお話を中心に進められた。

採用は例年に比べ約1か月遅れで進んで いるが、新型コロナウイルス感染拡大に よって打撃を受けている企業、逆に業績を 伸ばしている企業と、企業ごとに景気の影 響も採用状況も変わってくる。自分の受け たい企業の状況を確認することが必要だ。

いたずらに不安になるのではなく、新型 コロナウイルスがもたらす影響に対する不 安と、一方でコロナとは関係なく、就職活動 についての不安もある。この2つを混同する



ことなく、分けて考えることが大事という指 摘があった。

コロナ禍を逆に生かす

今回のコロナ禍で、臨機応変に今後の方針 を示している企業となかなか対策を進めら れていない企業がはっきりわかれた。また、 企業が社員に対しどう対応しているのかも 見える。コロナ禍を前向きに捉え、企業公式 Twitterやホームページ、各種就活情報サイ トなどで情報を集めて、大学の制度を活用し て、オンラインでやれることをやりきってい

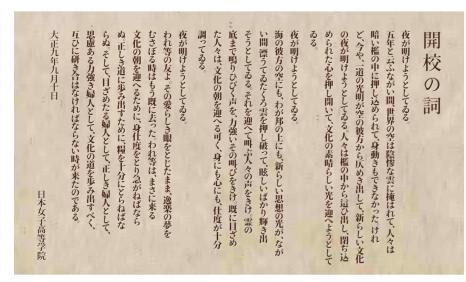
(記者: 日本語日本文学科 石井 七海)

昭和女子大学のはじまり

女子の高等教育への門戸が閉ざされてい た1918年(大正7)、詩人人見東明こと人見 圓吉(初代理事長)、緑夫人、加治いつ(初代院 長)たち5人が「文化懇談会」を発足しました。 誰もが自由に文化を論じる場に、向上心あふ れる若い女性たちが集いました。

第1次世界大戦終結後の翌年「日本婦人協 会として公開講演会、研究会に発展。熱心に に通う受講生に系統的な講義を行うため 1920年(大正9)9月、現在の文京区に開設 した「日本女子高等学院」が、本学のはじま

婦人協会趣意書が「開講の詞」となり、「目 ざめたる」「正しき」「思慮ある力強き」女性 として文化の創造を目指そうと格調高く呼 び掛け、今に引き継がれています。



昭和女子大学は 創立100周年です。

1920年 日本女子高等学院の誕生

9月10日、文京区の小石川幼稚園の一部を借り受けて「日 本女子高等学院」が講師5人に受講生8人で開講した。1922 年、東中野に校舎を建設。1925年撮影の卒業記念写真には前 年、同窓会を「光葉会」と命名した。学園の幹が年輪を重ねて 成長し、葉が卒業生一人一人を象徴し、「卒業生が思慮や識見 や才幹などを十二分に発揮して、光彩を放つようにありた い」との願いを込めた。機関誌「女性文化」を創刊。





1956年11月に復興記念式典を開催した際、 人見圓吉理事長が「文化祭をやろう」とひらめ 祭」を開催した。研究発表、詩の朗読など学芸、体 育各種目記録会という構成だった。翌年からは 付属校も参加する「昭和祭」となった。現在の「秋

1958年 『近代文学研究叢書』 菊池寛賞受賞

指導のもと実証を旨とし、学生たちが各地を実際に訪れて、新聞、雑誌の原稿まで



1974年 大学院を開設

日本文学専攻課程、英米文学専攻課程の大学 院を新設。1926年に付設した幼稚園を戦後す ぐ復活、初等部、中等部、高等部、短大、学部とい う土台に支えられ、一貫教育体系が完成した。 1989年、大学院文学研究科、大学院生活機構研





生きた文化研究館であり、クラシック音楽の 段階からバレエやオペラ用オーケストラにも配 慮した。現在も使用する第1緞帳「躍動する光 り込み、第2緞帳「光葉の大樹」は40日にわたり 1700人の同窓生が集まって1枚1枚木の葉を 座が開かれ、学生が一流の芸術に触れ、教養を身 に着けている。

1988年 昭和ボストン開校

「女性文化の帆を張りて、海路はるけく漕ぎ出たり」と創立者が校 歌にうたった精神を受け継ぎ、アメリカの学園都市ボストン郊外に (現・昭和ボストン)が開校した。日本初の正式な設立認可を受けた海 学科対象の夏季集中講座ボストンサマーセッションが企画された。 166人が通訳を務めるなど、国際交流の伝統のうえにグローバルノ



1994年 光葉博物館 開設

学芸員資格取得のため、文化財の保存管 理を学ぶ実習の場として光葉博物館が開設 された。学内の研究成果発表の場でもあり、



2013年 ビジネス系教育・研究に着手

設、2018年に会計ファイナンス学科を新設し、ビジネ ス界で活躍できる人材育成に力を入れている。2013 究員と教員が、研究・教育・ビジネスを融合するプラッ トフォームとなることを目指している。研究員は毎年 募集、自主的な研究活動だけでなく、学生のプロジェク ト活動を支援、知見を提供している。





創立時から収集した蔵書を戦災で焼失したが、1948年、卒 業生、学生、父母から寄贈された2万8116冊で図書館が誕生。 近代文庫、女性文庫などを加えて増改築を重ねた。2002年、80



2019年 スーパーグローバル キャンパス誕生

学園の歩み

が敷地内に移転、日米の大学が共存 大学に留学でき、様々な形での国際 シュ・スクール・イン・トウキョウ昭 和(2006年)などとともに、全年代 でグローバルな学び舎となった。

2020年、昭和女子大学は創立100周年を迎えます。 震災、戦災など数々の試練を乗り越え、 社会に貢献する女性の育成に努めてきました。

学園の歴史を写真とともに紐解きます。

>1920

>1950

>1980 >1990 >2000 >2010

>2020

創立者たち

早稲田大学在学中から人見東明として自 然主義の口語詩、自然詩の新境地を開拓。読 売新聞記者として自ら詩を発表しつつ、演 劇の芸術座、美術のヒュウザン会など幅広 く芸術活動を支えました。代表作に詩集『夜 の舞踏』『恋ごころ』『愛のゆくへ』。知人のた めに無給講師を務めたのがきっかけで「文 化懇談会」を開催、「日本女子高等学院」を創 立して教育にまい進しました。詩や近代文 学の研究を続け、86歳で詩集『学園の歌』を 出版しました。勲二等瑞宝章。







日本女子大学校国文科に学び、人見圓吉 と結婚後も源氏物語、枕草子などの研究を 続けました。第1次世界大戦後の悲惨な状況 で、トルストイの学校のように愛と理解と 調和を旨とした学校を提唱。「文化懇談会」 を発足し、日本女子高等女学院から昭和女 子大学で教鞭をとりつつ、寮監長として学 生たちと学園の成長を支え続けました。

の精神を「世の光となろう」に託し、国際化 社会に対応する理想を掲げ、人見記念講堂、 昭和ボストンと環境を整備。中国、ロシアな ど交流を世界へと発展させました。



中野1300坪の校舎、3万5000冊の図書などすべて焼 失した。終戦後、現在の世田谷区三宿町の東部第十二 部隊跡地に移転した。教職員、学生に父母の応援も得 て、兵舎を校舎に改造した。写真は1951年、グラウン

1945年 戦災を経て、世田谷へ

1955年 不審火からの復興 3月1日原因不明の不審火により、校舎、寮、教員住 宅と、学園の3分の1を焼失した。教職員、学生、生徒が 焼け跡を懸命に片づけ、3日からの入学試験を実施し た。震災、戦災、不審火と、3度校舎を失いながら、不死 鳥のように蘇り発展していく。8月、「近代文学研究叢

書50巻刊行」計画を発表した



1949年 「昭和女子大学」のはじまり

戦後の教育改革で女子大学が制度化され、 子専門学校が「昭和女子大学」として新たに発足 した。大学名は、従来の附属高等女学校の校名で 和」が新時代への脱皮と真の民主主義を象徴的 に包含しているという理由から決まった。学芸 学部国文学、英文学、被服学の3学科で、初年度 入学者は24人だった。翌年、短期大学部を開設。





近代文化研究所の原点

生活美学科被服学研究室『近代 日本服装史』、生活科学科食物学研 究室『近代日本食物史』を刊行し た。それぞれ15年間と14年間にわ たりのべ300人が、明治以来の新 聞雑誌をくまなく読んで、卒業生 ないだ集大成だ。この刊行を機に 近代文化研究所が設置された。



1977年 東明学林が完成

創立以来教師と学生が起居をと もにしながら学究と労作に励む全 人教育を推進してきたが、さらに 研修学寮という形で、密度の濃い ものにしようと、東明学林が神奈 川県大井町に完成した。1986年 に望秀海浜学寮が千葉県館山市に

1986年 女性文化研究所 開設

男女雇用機会均等法施行の年、女性文化を追求し、

女性研究者の育成に寄与するという理念のもとに設

立された。人文科学、社会科学、自然科学の全領域を

「女性文化の研究」に結集させることを目的に研究を

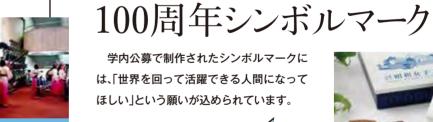
重ねている。2008年から坂東眞理子基金「女性文化

研究賞しを、男女共同参画に寄与する書籍に授与して



上海交通大学 「楚形昭韻」演奏

中国・上海交通大学と姉妹校 締結し、記念に贈られた「楚形昭 韻」が人見記念講堂で演奏され た。これは、大小の青銅製のつり 鐘43個が3層に並ぶ中国古代王 朝の楽器で、紀元前5世紀の古 現代の音階に合うよう複製し た。同大とは現在、ダブルディグ リー・プログラムなどで交流を 深めている。



学園をひとつに 100周年記念事業

創立100周年を記念し、昭和女子大学の画、実施しています。 未来について語り合う女性教養講座「未来 とビジョンを語る大会議」を実施予定です。 11月9日には100周年記念式典を行いま す。学園全体が未来に向けて決意を固める ための記念事業として記念グッズ・LINEス タンプ・学園イメージソング制作、国際交流 事業、記念写真展、卒業生インタビューを企





記念事業の最新情報は昭和女子大学創立 100周年記念特設ウェブサイトでご確認く

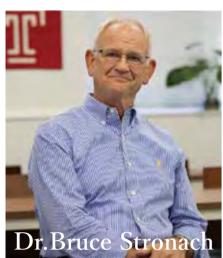
※行事は新型コロナウ イルス感染拡大などで 予定が変更になる場合 があります。



コロナ禍における|オンライン国際交流|

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は世界中に感染が広がり、海外との行き来が止まりました。 現実の往来に代わり、オンラインで交流し、グローバルな学びを止めない努力が続いています。

不測の事態に立ち向かうTUI



ブルース・ストロナク TUJ学長(6月現在)

TUIとのプログラムを継続

TUJが2019年度に敷地内に移転してき ました。新型コロナウイルス感染拡大を受 けて、夏学期の「単位互換プログラム」はオ ンラインで実施し、9月からの秋学期では 「単位互換制度」「ダブルディグリー・プログ ラム(国際学部対象)」が始まります。

コロナパンデミックが起こった今年3月、 テンプル大学ジャパンキャンパス(TUJ)と 日本の大学の最大の違いは、春学期(1月~4 月)の只中で、すぐにオンラインへ移行を迫 られたことです。授業だけでなく学習面のサ ポート、学生課、教務課、カウンセリング、会計 課などもオンライン化が必要でした。幸いに もIT化が進んでいる米国本校と学習システ ムを共用しているので環境が整っていたこ と、図書館も電子化が進んでいたことなどに

より、比較的スムーズな移行ができました。 我々にとって学生自身の精神面や経済面

が懸念でした。緊急支援金給付やIT面での支 援、学期間の寮費を無料とするなどのサポー トを行いました。TUJの学生は日本人以外が 60%でその大半は米国から直接入学した学 生と米国本校を通じて来日する短期留学生 です。米国本校は3月に短期留学生を帰国さ せましたが、その際TUJ直接入学の学生は選 択を迫られ、多くの学生は日本にとどまるこ とを選択。理由のひとつは、3月に本国に帰国 してしまうと夏学期に日本に戻れないかも しれないからです。

5月末に始まった夏学期も引き続きオンラ イン授業を行っています。当初夏学期は学生 の減員を予測していましたが、実際はその反 対で1,000人を超す学部生が受講、通常より

50人以上多い人数です。問題は秋学期です。 「制約のある」形、つまり卒業研究、芸術制作 など、対面授業が不可欠なコースを除きオ ンライン授業を予定しています。現在、ビザ 発行の再開時期が不透明なため学生数の見 通しが立ちません。外国からの新入生が入 国できなければ日本人学生の割合が通常よ り増えるかもしれません。また入国できな い学生のうち、どの程度がオンライン授業 を希望するかも未知数です。パンデミック が下火となる中、どの程度の学生がキャン パスに戻りたいのか、オンライン授業継続 を望むのか、世界中の大学の共通の課題で すが、皆で不測の事態に備えておかなくて はならないのです。



オンラインで新しい 国際交流が始動

学科の講義や課外活動等でTUJの学生とグローバルに学ぶ機会が豊富にあります。

コロナ禍における交流 事例① 全学生が参加できる 日本語・英語サロン

2019年9月にTUJが移転して以来、狂言 や刀剣などの日本文化を一緒に学んだり、共 同で利用する学生食堂で世界の食を紹介す る「世界食堂」メニューを一緒に提案するな ど、両大学間で様々な学生交流が行われてき ました。コロナ禍で、両大学ともオンライン 授業に移行して学生は登校禁止となり交流 の場が失われました。両大学の学生グループ が互いの学生のために企画した「日本語サロ ン」と「英語サロン」は、交流再開を目指して 5月22日、Zoomで日本語サロンを試験的に 実施しました。両大学から約20人ずつが参 加、Zoomの「ブレークアウトルーム」機能を 活用し、小人数グループに分かれて会話を楽



しみ、オンラインならではの交流で盛り上が りました。この成功を受けて、6月5日の英語 サロンから本格的に新しいオンラインでの 学生交流をスタートしています。

コロナ禍における交流 事例② 学生同士で議論深める オンラインシンポジウム 「逆境の中の希望を求めて (Comfort in Crisis)

コロナウイルスにより全世界で一変した 生活。この危機をどう乗り越えていけばよ いのか、日米で意見交換するようと6月19 日、学生グループによる合同シンボジウム めて一」がZoomで開かれました。

主催したのは、昭和女子大学で英語サイ ト「Palette」(パレット)を運営するビジネ スデザイン学科今井ゼミ有志学生と、TUJ の英語媒体「Uprizine」(アップライジン)の メンバー。昨秋、TUJが移転してきたことを きっかけに、日米学生の合同シンポジウム を開き、今回で2回目です。

昨年度は対面で企画、開催しましたが、今回 は企画もすべてオンラインでZoom meeting やLINEを通して練り上げました。



今回のシンポジウムでは次の4つのト ピックを話し合いました。

1.コロナ禍で拡大しつつある格差をどう するか、2.自粛中だからこそ!ネットリテ 政府の対応、4.コロナウイルスが引き起こ した対アジア人差別の広がり――です。

シンポジウムはPalette代表が日本語で、 Uprizine代表が英語で司会を務め、英語が不 得意な学生も緊張せず気楽にフレンドリー に参加できる場を作り出してくれました。

コロナ禍を グローバルな視点で考える

4つのトピックから自分が興味のある分野 を選び、Zoomのブレイクアウトルームに分 かれ、各グループで意見交換しました。

資料を用いながら現状を理解し、今後を考 えていく対アジア人差別を考えるグループ や、メディアを利用する際にどんなことに気 をつけるかを、各国メディアの特徴を踏まえ ながら考えていくインターネットリテラ シーグループなど、各グループで活発な議論

多様な意見や考え方を吸収でき、大きな収 穫になりました。今後も海外学生と共に語り 合うイベントを企画していくそうです。

(記者: ビジネスデザイン学科 山田有瑠奈)

TUI)日米アカデミックフォーラムを共催

よりよい大学教育実現のために昭和女子大学とTUJは「日米アカデミックフォーラム」を共催 しています。これまで、日本の高等教育の課題や学生・教育支援について議論しています。今年は 「オンライン教育」をテーマに、その心理的影響や日米の違いについてオンラインで議論します。 今後、開催の詳細については本学ウェブサイトで発信していきます。

学びを止めるな一昭和ボストン

生を対象に、今秋より、本学の海外キャンパ スである昭和ボストンとのオンライン授業 を実施します。リアルタイム配信や動画配信 を使い分けて実施していきます。さらに、オン ラインで現地大学の学生と交流できる「昭和 フレンドシップサークル」なども実施する方 向で調整を進めています。



昭和ボストンに 関する対応

新型コロナウイルス感染拡大を受け、昭和ボストンでの夏季短期研修プログラムを中止し、 後期の留学プログラムをオンラインに変更しました。詳しくは国際交流センターまでお問い合わせください。

留学が延期になったキャンパスライフ

ビジネスデザイン学科は2年次前期に昭 和ボストンに留学する予定でした。留学が3 年次前期に延期になった今、どのような学校 生活を送っているか、お伝えします。

3年次前期に履修する予定だった科目を2 年次前期に先取りして受講しています。この 科目は3、4年生と一緒に受講します。

授業はZoomでのオンライン授業、録画配 信授業、課題提出授業の3種類があります。 Wi-Fi環境に問題がある学生も参加できるよ

う録画が配信されたり、課題を提出したり することで出席となります。授業資料はUP SHOWAという学生ポータルサイトからダ ウンロードして印刷でき、大学に行けない 状況でも授業に励み、しっかり学修できて います。

クラスルーム

本学ではクラスアドバイザー制を設けて います。学科・学年ごとにクラスに分かれ、ク ラスアドバイザーの先生がいて、クラスルー ムが開かれます。私の場合はクラスルームが

在学生の保護者様より

昭和女子大学在学生の保護者の方よ

り、コロナ禍での留学生支援としてお米

をご寄付頂きました。頂いたお米は国 際交流センター(CIE)のスタッフで仕

分けし、早速学生寮へ入寮中の留学生

25名へお届けしました。大変な状況の

中でのあたたかなお心遣いに感謝申し

上げます。

留学生支援のお米を頂きました

2週間に1回程度行われます。先輩方の就職 活動の話や、今勉強するべき資格の話を聞く ことができました。このような状況だからこ そ自分から率先して行動することが大切な のだと分かりました。

グローバル

就職活動に関して

就職活動は主に3年生から始まりますが、 留学延期により3年生向け就職ガイダンスを 聞くことができました。留学延期が決定した ときはとても残念でしたが、今、オンライン で充実した大学生活を送り、来年の留学に備

(記者:ビジネスデザイン学科 井上 由菜)

オンラインで広がる 学内交流の輪

昭和女子大学には海外から多くの学生が留学し、学内で国際交流をしています。 コロナ禍でも留学生と交流する様々な機会を設けています。

離日した留学生 韓国からオンラインで受講

人間社会学部現代教養学科・シム チュン キャット准教授による「社会をみる目」は韓 国から本来であれば留学にきていた学生も オンラインで参加しています。

この授業は、現代の人間社会を理解するう えで基本的な事項や争点について講義、議論 するものです。

日本の就職活動の慣習について考える講 義では、留学生が現地からオンラインで韓国 での就職活動の実態や日本との違いについ て他の受講生に説明しました。

国際交流サークルCHAWAで交流

昭和女子大学では、世界の協定校などから 約100人の外国人留学生が学んでいます。日 本人学生と留学生が親睦を図る国際交流グ ループ「CHAWA(茶輪)」では、国や学部、学



年を越えて参加者全員が楽しめる文化交流 イベントを企画・運営しています。今まで季節 に応じたイベントや各国の料理を一緒に作る クッキングパーティーなどのイベントを行っ てきましたが、当面対面での交流ができなく なったため、お昼休みの時間にオンラインで 「Afternoon Tea Time」という気軽におしゃ べりできる交流会を実施しています。

今年度5回目の実施となる6月25日には、 日本人学生10人と留学生6人が参加し、小 グループでコロナ禍の家での過ごし方など について会話を楽しみました。今後もオン ラインと対面を交えた交流が計画されてい

協定校―ワルシャワ大学との交流会―

中止のお知らせ

協定校を中心とする後期認定留学は全て中止となります。 -部協定校においては、オンライン授業等の代替策を検討しています。 詳しくは国際交流センターまでお問い合わせください。

国際政治や文化、歴史など幅広く学ぶ現コロナ禍での 代教養学科 志摩 園子教授の国際関係論ゼ ミでは、協定校であるポーランドのワル ことが目的です。

人、教員1人が参加しました。

互いの暮らしを知る

交流会では、外出自粛やオンライン授業を シャワ大学日本語学科の学生と日本語でオおこなう中で、どのような生活を送っている ンライン交流会を実施しました。学生がよ か互いに情報や意見を交換しました。日常的 りグローバルな視野を持ち、刺激を受けるなテーマをカジュアルに語り合い、互いの文 化・背景、大学での学びに対する意識の違い 昭和女子大学の3・4年14人、ワルシャワ を気付くことができました。参加したワル 大学からは学部2年から修士1年までの13シャワ大学の学生は日本に関心があり、参加 学生の研究対象の神道や漫画等について話

し合う場面もあり、海外の学 生の視点から日本の文化を知 ることで、日本人である自分 たちも見落としていた日本の 文化を改めて考えるきっかけ になったといいます。

「伝えたい」「知りたい」 という気持ちが大事

研究室の学生はそれぞれ、ワルシャワ大学 の学生に紹介したいことをすすんで準備し、



自粛下の暮らしを説明しました。このことに ついて、志摩教授は「語学力に自信がなくても よい。伝えたいことや知りたいことをもって 交流することが大事」と話しています。